

近畿地区

## 地区短信

中部地区

修験道の開祖、役小角（えんのおづめ）」  
と吉祥草寺の大トンド

今回は修験道の開祖役行者と生誕の地に立つ吉祥草寺で毎年1月14日に豪壮に催される奈良県指定無形民俗文化財茅原大トンド(写真)を紹介したいと思います。

時代劇やニュースに白装束に金剛杖、法螺貝といういでたちで登場する山伏は修験道を修行する修験者のことです。修験道は山へ籠もって厳しい修行を行う事により、さまざまな験(しるし)を得る事を目的とし、山を神と敬う古来日本の山岳宗教と神道、仏教などが融合した日本独特の宗教です。平安時代から盛んに信仰されるようになり、密教との結びつきが強く、鎌倉時代後期から南北朝時代には独自の立場を確立した。

修験道の開祖といわれているのが役行者、神変菩薩と呼ばれている役小角(634年~706年)です。役小角は奈良県御所市茅原で生まれ、生誕の地に吉祥草寺が建立されている。17歳のときに元興寺で孔雀明王の呪法を学び、その後葛城山(金剛山)で山岳修行を行い、熊野や大峰の山々で修行を重ね、金峯山(吉野)で金剛蔵王大権現を感得し修験道の基礎を築いた。忍者や薬剤師の祖ともいわれている。伝説に鬼神を使役できる法力を持ち左右に前鬼と後鬼を従えていたが葛城山と金剛山の間に石橋を架けるため諸国の神々を動員したおり、一言主(一言主神社の祭神)が夜しか働かなかったので法力をもって折檻した。それに耐えかねた一言主が天皇に役行者が謀反を企んでいると讒訴し、役行者の母親を人質にした朝廷によって捕縛され、伊豆大島に流刑になった話は有名である。

また、2004年7月にユネスコの世界遺産に「紀伊山地の霊場と参詣道」の文化的景観を示す主要な構成要素として史跡「大峯山寺・大峯奥駈道」が登



吉祥草寺

録されたがこの一帯、吉野熊野国立公園は役行者が開いたものであるといわれている。

最後に、役行者の生誕の地にある吉祥草寺の大トンドについて紹介しますので近畿に来ることがあれば是非、吉祥草寺にお立ち寄りください。

【中山亮一】

茅原(ちはら)大トンド 別名: 吉祥草寺左義長(きっしょうそうじさぎちょう)

境内に作られた雌雄一対のトンド(大松明)に火をかけ、今年の豊凶を占う。地元では火を火縄に移して持ち帰り翌朝あずき粥を炊く風習もある。県指定無形民俗文化財。

## 白川郷合掌集落ライトアップ

白川郷は、岐阜県西北部に位置する山村です。富山県と連なり、西は白山山系を経て石川県と境界をなしています。豪雪に耐えるために屋根の勾配を60度近い急傾斜にした又首構造の切妻屋根の茅葺き家屋は、その形から「合掌造り」と呼ばれています。他地区の日本の民家に比べて規模が大きく、小屋内を2層から5層に造り、養蚕が積極的に行われていました。

19世紀末には白川郷と五箇山地方の合わせて93の集落に1,800棟以上の合掌造り家屋があったようですが、第2次世界大戦後の日本の急激な経済発展、ダムの開発事業等により、わずか144棟となってしまいました。

1970年代、合掌造りの家屋が比較的に残っていた白川村荻町と平村相倉、上平村菅沼の3つの集落では、集落の住民と村当局が中心となって、建物だけでなく、農地、水路、道、森など、周囲の自然と一体となって形成される集落景観の全体を対象とする保存運動が始まり、これら3つの集落は、今日まで良好に保存されてきています。しかし、市町村合併で2004年11月に平村と上平村は他の町村と合併して南砺市となってしまいました。

1995年、世界遺産に登録されている「白川郷・五箇山の合掌造り集落」は、この時期、ライトアップ観光が行われており、一見の価値はあります。 【高木義弘】

◎1月14日(祝・月): 20時前後に点火~1時間程度  
吉祥草寺(御所市茅原)  
交通: 近鉄御所駅より八木・檀原神宮行きバスで「茅原」下車徒歩すぐ  
近鉄檀原神宮駅から御所駅行きバスで「茅原」下車徒歩すぐ  
JR玉手駅下車徒歩3分  
料金: 無料 問合せ: 吉祥草寺 0745-62-3472



吉祥草寺左義長